

特殊報第1号

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

平成22年度病虫害発生予察特殊報第1号について

このことについて、病虫害発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

- 1 病虫害名 レタスヒゲナガアブラムシ：*Nasonovia ribisnigri* (Mosley)
- 2 被害作物 レタス、リーフレタス、サラダナ
- 3 発生確認の経緯

平成22年5月20日に、植物防疫所が実施した輸出検査において、本県産サラダナでレタスヒゲナガアブラムシが確認されたとの連絡があり、5月25日に門司植物防疫所と合同で現地栽培ほ場での調査を行った。現地でアブラムシ類の成虫を採取し、門司植物防疫所で同定したところ本種であることが確認された（写真1、2）。その後、当所で県内のレタス産地で追加調査を行ったところ、県内各地で発生が確認された。

本種はヨーロッパ原産と考えられている害虫であり、国内では本年3月に香川県で発生が確認されている。

- 4 形態および生態

- (1) 形態

幼虫は黄緑色で翅がなく、成虫は有翅虫と無翅虫がある。無翅雌成虫の体形は紡錘型、体長は約2.5mmである。体色は淡緑色～緑色で、腹部背面の各節の亜縁部両側に褐色の白斑紋を有し、その間は横帯状に淡褐色となる（写真1、2）。

- (2) 生態

発生国での報告では、完全生活環を営むアブラムシで、主にレタス、チコリなどを加害する。新葉を好んで加害し、巻き葉の中や結球部に寄生する。リーフレタス等の結球をしない作物においては、内部の葉や、折りたたまれた葉に寄生する（写真3、4）。

- 5 簡易な識別法

国内のレタスを加害する主なアブラムシ類（ジャガイモヒゲナガアブラムシ及びチューリップヒゲナガアブラムシ）とは、腹部背面がほぼ一様に淡緑色から黄緑色で、斑紋を欠く点により、肉眼でも識別できる（但し、成虫のみ）。

既存のアブラムシ類が主に外葉上に寄生するのに対し、本種は結球内部に入り込む性質を有するので、寄生部位により推定できる。

## 6 被害

結球内部に入り込む性質のため、アブラムシが混入したまま気付かず出荷し、クレームになる可能性が考えられる。また、他のアブラムシ類と同様にレタスモザイクウイルスやキュウリモザイクウイルスを媒介する。

## 7 防除対策

既存のアブラムシ類に登録がある薬剤で防除効果が期待できる。

## 8 参考資料

輸入検疫で発見された主な重要病害虫

( [www.maff.go.jp/pps/j/guidance/pestinfo/pdf/PestInfo\\_86\\_04.pdf](http://www.maff.go.jp/pps/j/guidance/pestinfo/pdf/PestInfo_86_04.pdf) )

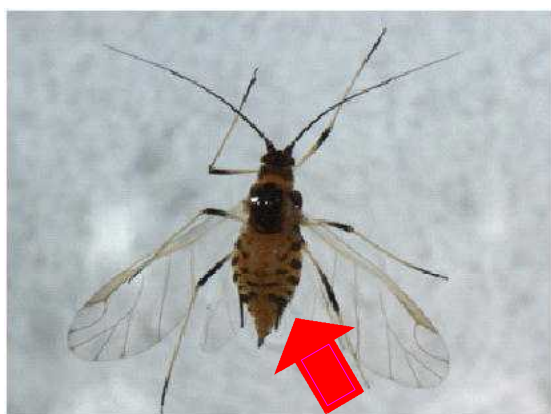


写真1 レタスヒゲナガアブラムシ有翅型

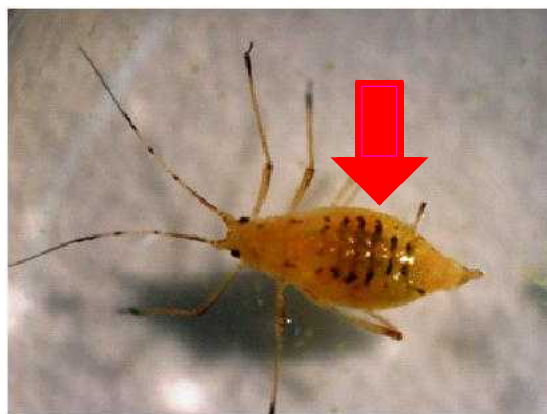


写真2 レタスヒゲナガアブラムシ無翅型



写真3 サラダナ寄生状況(中心部)



写真4 グリーンリーフ寄生状況(表面)

写真提供：門司植物防疫所